「祭典へ一丸」と話す八村＝共同

バスケ・八村

錦織は「延期はよかった」と語る

テニス・錦織

2020年東京大会の延期が決まったことを受け、仕切り直しとなる日本選手たちはSNS（交流サイト）などを通じてメッセージや心境を発信している。既に代表に内定している選手もいれば、選考レースが山場で打ち切られた選手もいる。奪われた立場はそれぞれだが、まずはこの危機を乗り越え、その先の夢の舞台を楽しみに待とうというポジティブな姿勢が感じられる。

中止せず安心■安全が最優先
変わらず稽古■感動を与える

「驚きがあった」という堂安＝共同

サッカー・堂安

植草は1年で技を磨く＝共同

空手・植草

右肘故障で戦線離脱中の男子テニス、錦織圭（日清食品）は公式アプリで動画を公開し「少し安心した。キャンセル（中止）でなかったのと、延期になったのはどの選手にも良かったと思う」と前向きに受け止める。「チャンスをいいように一丸となり、これからも頑張りましょう」と呼び掛けた。

ボクシングで2大会連続の代表に内定した成松大介（自衛隊）は「1年の延期は問題ありません。メダルを獲得するためにトレーニングを積んでいきたいので、少なからず驚きはあった」と正直な思いを口にした。

自身も欧州で自粛待機を強いられている。「世界が一つになってこの危機を乗り越え、僕たちはみなさんに感動を与えられるように頑張りたい」と1年後を見据える。

米プロバスケットボールNBAのウィザーズに所属する八村塁は、インスタグラムで「世間は現在非常に厳しいチャレンジに直面し、今は健康と安全が第一。優先だと思います」と延期に理解を示したうえで、「世界がこの難局